

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立松岩中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒988-0141
宮城県気仙沼市松崎柳沢186番地
 E-mail : matu-jh@hyper.ocn.ne.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 122名 女子 110名 合計 232名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ：福祉の里づくり ～福祉をとおして未来を考える～

1 本校のESDでめざすもの

(1) ねらい

福祉施設との連携・交流を中心に地域に根ざした「探究的学び」「協働的学び」へと段階的に取り組み、福祉をとおして「すべての人」のための未来を築く必要性を実感し、その担い手として自覚を高め、積極的に関わる心と態度を育成する。

(2) 育てたい資質・能力

- ・気仙沼支援学校との交流活動を通して、互いに認め合い、協力し合う意識を育てる。
- ・高齢者との交流活動を通して、人生の先輩として尊敬し、敬う意識を育てる。
- ・障害者及び高齢者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。
- ・社会の仕組みや地域の未来に目を向け、自らが担い手となることを自覚し、積極的に地域に関わり行動しようとする心と態度を育てる。
- ・防災における自助・共助の意識を高める。
- ・福祉の視点から地域の防災についての問題点や課題を見つけ、その解決方法を考える力を育てる。

2 26年度のESDの概要

(1) 実践の概要

本校では、平成21年度から総合的な学習の時間を中心に、テーマを「福祉の里づくり」、サブテーマを1学年「互いを知るために」、2学年「先人に学ぶ」、3学年「市への提言」として、福祉について体験学習及び探求活動を行ってきた。ESDへの取組として、「すべての人」が幸せに暮らせる社会をつくる担い手の育成を目指し、26年度は、3年生のサブテーマを「福祉の目で防災を考える」にかえて、1・2学年で学んだことを生かし、地域の防災について考える活動を行っている。

○1学年「仲間づくり・互いを知るために」

- ・気仙沼支援学校との交流をとおして、互いに認め合い、協力し合う意識を育てるとともに、障害者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。

〈主な活動〉

支援学校との交流活動（レクリエーション交流、グラウンドゴルフ交流、クリスマス交流）／福祉体験学習／探究学習（個人テーマに基づいた探究活動）／防災教室

○2学年「先人に学ぶ」

- ・高齢者との交流活動をとおして、人生の先輩として尊敬し敬う意識を育てるとともに、高齢者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。

〈主な活動〉

高齢者との交流（福祉施設訪問）／探究学習（個人テーマに基づいた探究活動）
防災教室／防災講話／救急救命講習

○3学年「福祉の目で防災を考える」

- ・福祉の視点から地域を見直し、問題点や課題を見つけ、その解決方法を調べ考えさせる。また、福祉の学習を通し、社会の仕組みや未来に目を向け、未来の社会の担い手としての自覚をもって、積極的に関わっていこうとする心・態度を育てる。

〈主な活動〉

探究学習（個人テーマ（サバイバル体験・心のケア・避難所設営・けが人対応の4テーマ）に基づいた探究活動）／防災教室

（2）活動の評価の観点と方法

- ・それぞれの内容毎に設定した評価基準をもとに、生徒の様子を観察したり、探究活動の報告書等からの変容をとらえたりしながら、データを蓄積していく。
- ・文化祭を表現・発表の場ととらえ、それぞれから福祉を学び、感じたことを様々な形で表現・発表し、自分の考えを広く発信させる。また、他の発表を見聞きすることで、福祉に対する自分の考えをさらに深め、自己の学びにつなげさせる。

（3）今年度、特に工夫・改善したこと

今年度の大きな改善点は、福祉の学習に防災の視点を加えたことである。1学年では防災教室で「自助」について学び、2学年では防災講話や救急救命講習で「共助」について学んだ。そして、3学年の探究学習の中で、1・2年で学んだことを生かし、防災の視点で福祉のあり方を考えさせる活動に取り組んだ。

3 「国連・ESD10年」を振り返っての成果と課題

（1）ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

- ①成果：30年以上続いている支援学校との交流は、今後も本校のESDの柱の一つである。新たに取り入れた防災の視点は、新たな角度から地域を見直す機会となり、福祉に対する視野をさらに広げることにもつながったと考える。
- ②課題：福祉の学習が防災を考える上で生きてくるような、福祉と防災を関連させた活動内容を工夫していきたい。また、地域との連携強化や人材の発掘に努めなければならない。

（2）指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

- ①成果：1学年時で「障害者福祉」、2学年時で「高齢者福祉」について学び、3学年時にそれらを踏まえた探究活動を行うことで、福祉についての理解を段階的に深めることができた。
- ②課題：単発的な体験活動にならないように、指導計画の中に課題解決学習を明確に設定する必要がある。また、教科、道徳、特別活動、志教育などとの関連を再確認し、限られた時数の中で効率の良い活動にすべきである。

（3）育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容、評価の視点から

- ①成果：「福祉」そのものが誰か特別な特定の人々ためだけのものではなく、万人の幸せを願うものであることに気付かせることができた。さらに、地域性を生かした福祉への取組を、防災への取組と関連させることが必要なのではないかという意識が高まった。
- ②課題：文化祭で、各学年のプレゼンによる発表やレポート等の展示発表を見聞きするだけでなく、感想箋やふせん紙などで生徒同士、また、保護者や地域の方との意見や感想などを交流できるようにすることで、自己肯定感や自己効力感を高めさせたい。

4 今後の本校ESDの方向性

- （1）「福祉」と「防災」をより関連付けるために、各学年の活動の精選を図りながら、福祉学習プログラムの再構築が必要である。
- （2）「福祉の里づくり」の学習をより地域に根差した取組みにするためには、生徒と保護者や地域住民が、考えや願いを交流できる場の設定が必要である。保護者や地域住民の参画が図れるような活動を検討していきたい。

(3) 校内でのESDについて共通理解を深め、推進体制を整えることで、ESDの取り組みをより充実させていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）